

# 令和6年度 聖華こうどう保育園 施設自己評価

令和6年度 3月31日（月）

〔記入方法〕

- ・ A、B、C、Dの4段階評価です。該当する欄に○を付けてください。
- ・ 項目ごとに、意見・改善策を記述してください。

A：理解して十分に取り組んでいる

B：概ね取り組んでいる

C：理解が不足し十分に取り組んでいない

D：取り組めていない

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している	○				毎月の職員会議等で周知別紙確認項目あり
	保育者は子どもに対して威圧的、命令的、非定位的な言葉遣いをしていない	○				
	長期欠席の子どもの状況把握をしている	○				
	子どもの様子で気になることは関係機関に報告している	○				
	個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している	○				
教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は地域の状況を把握し、足立区の目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている	○				地域密着を意識した運営を心がけている。保育運営については経験の浅い職員集団なので、保護者との信頼関係を良好にするため、園長を筆頭に積極的にコミュニケーションをとるようにしている。その他、保育の質向上をするために、園内研修、または区の研修に積極的に参加して、スキル向上に努めている。
	教育・保育要領保育所保育指針を十分に理解し向上心を持って教育・保育に取り組んでいる	○				
	子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている	○				
	社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研磨研鑽に努めている	○				
	教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができています	○				
	保育者等の自己評価結果に基づいた施設長と職員の話し合いを実践している	○				
	利用者（保護者）の意見を聞き、改善に努めている	○				

項目	内 容	評 価				意見・改善策
		A	B	C	D	
教育・保育計画	全体的な計画（教育課程やその他の計画を含む）は、園の理念、方針目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育の「ねらい」「内容」が総合的に展開されるよう構成されている（職員の参画のもとに作成している）	○				各年齢発達を理解することに力を入れているが、各月や週の保育計画に文書とすると目標が高くなってしまいがちである。引き続き発達理解に深めていく。
	全体的な計画（教育課程やその他の計画を含む）をより適切なものに改めていくという姿勢を、すべての保育者が持っている	○				
	指導計画を作成するにあたっては、一人一人の子どもの発達過程や状況、クラスの実態について、職員の共通認識のもとに作成している	○				
	一人一人の子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている	○				
	就学先の小学校へ、子どもの育ちを支える資料（保育児童要録）を確実に送付し、情報共有を図っている	○				
環境	保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている	○				整理整頓ができるクラスと苦手なクラスがある。引き続き指導していく。また、子どもが自由に玩具などとれる環境に引き続きしていきたい。
	各保育室は整理整頓され、雑然としていない		○			
	各保育室には、一人一人の成長発達を考慮した遊びを準備している	○				
愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている（0・1・2歳児）	○				どの年齢に対しても愛着形成の働きかけは意識している。愛情を注ぐことはすぐにでもできることで、園で一番力を入れていることである。
	保育者は一人一人の思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている	○				
	子ども同士がお互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している（3歳児以上）	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
健康・安全	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる	○				各安全管理については定期的に見直すこととしている。また、職員会議等で全体にてマニュアル確認も実施。 引き続き保育の基本を徹底していく。
	アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している	○				
	子ども一人一人の生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている	○				
	定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している	○				
	子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる	○				
	保健（衛生管理・感染症対策等）に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している	○				
	年齢発達に合わせて、ぶくぶくうがいや正しい歯磨きの方法を指導している	○				
	家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる	○				
	早寝早起き、朝食を食べる等の生活リズムを整えるとともに、1日3食野菜を食べる等望ましい食習慣の大切さを家庭に伝えている	○				
	施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている	○				
	緊急時にも対応できる職員体制が整っており、役割分担が決まっている	○				
	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実践している	○				

項目	内容	評価				意見・改善策
		A	B	C	D	
幼保小連携	0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している	○				近隣小学校と密な連携をとることができている。保護者に発信して園のアピールポイントとしている。
特別支援	記録に基に、どのような場面で子どもが困っているかを検討し、必要に応じて専門機関（子ども家庭支援センター等）の助言を受けている	○				子ども家庭支援センターげんきや民間発達支援施設と連携をとり進めている。また、今年度職員1名が区の発達支援コーディネーター認定となる。
	子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている	○				
保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている	○				ホームページや区の情報発信等で子育て支援事業を行っている。年間通して園見学は多いが、保育所体験は少数である。企画の検討をしていく。
	区や地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭を関係機関につなげている	○				
	施設が実施している子育て支援事業の情報を積極的に発信している	○				